

秋保神社社報



秋保神社拜殿

初詣は秋保総鎮守氏神様の秋保神へ

月に一度は神社に詣で

家族の平安と幸福を祈りましょう

秋保神社社報 創刊号
発行所 秋保神社社務所
代表者 宮司 高山亮榮

仙台市太白区秋保町長袋字清水久保北二
電話 三九九・二二〇八
発行日 平成十七年十二月十五日

ご挨拶

今年もいよいよ押し迫ってまいりましたが、皆さんのご家庭でも年末年始に向け何かとお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

神社でもこれから年末、そして新年を迎える準備の為日ごと慌しくなっております。

さてこの度、かねてから念願でありました社報を創刊することとなりました。例祭の折に、当社の歴史を詳しく知りたいとお声をお聞きしたのがきっかけで、歴史・由緒について少々とりまとめ社報として刊行致しました。

この社報を通じ、氏子の皆様の心の拠り所として神社を再認識していただければ幸いです。今後は、「感謝と祈り」を中心に、特に古から続いてきた大切な神事や慣習などを今一度掘り起こしたり、秋保に残るすばらしい文化伝統の護持に努めてまいりたいと思います。

更には新たな創造により地域の発展に少しでも寄与することができれば栄光です。

どうぞ秋保の大神様の大きいなるご加護により、新年が麗しい年となりますよう御祈念申し上げます。創刊のご挨拶と致します。

新春の行事について

元 旦 午前十一時 歳旦祭

特別年頭祈願祭

一月十四日午後六時～午後九時

(土) どんと祭

同日午後六時 初神楽奉納

御祈祷のご案内 要予約

年頭祈願を左記にて随時御奉仕致します

元 旦 午前零時～午前二時

一月二日 午前九時～午後一時

一月二日 午後一時～午後四時

一月三日 午前九時～午前十一時

三が日後は予約制にて通常通り午前九時

～午後四時頃まで毎日御祈祷を行います

ご家族や個人の御祈祷

家内安全・身体健康・合格祈願・八方除・

交通安全・心願成就・病氣平癒・必勝祈願等

厄祓(厄年表・数え年)早めにお祓いを!

男 二十五・四十一・六十一歳…本厄

女 十九・三十三・三十七歳…本厄

前後は前厄・後厄といい三年間続きます

会社や団体の祈願

商売繁盛・社内安全・安全祈願・合同厄祓等

年末のお祓いや春祈祷などのお日待ち、

神棚祭・氏神祭・家祓・地鎮祭・ホテル等で

の団体祈願等出向祭を御奉仕致します

御由緒

元、秋保村領主秋保氏の勧請するところにして秋保氏の祖先平重盛の孫資元は平氏で西海に没落の折肥前長崎に居住す。其後、平基盛に至り永仁三年八月鎌倉將軍維康親王に仕え奥州名取郡を賜り秋保郷に住し、徳治二年左近衛將監に任じた。

数代を経、平盛房に至り明暦九年深谷大曲城主永井掃部晴信の攻むるところとなり再び没落して最上山形に流浪、天童に留まること十二年余、厭世の極西海巡礼を思い立ち途中信州諏訪に鎮座の諏訪神に本土恢復のことを祈願し数年後天童に帰る。時に永井氏意驕り民を虐たげること甚しく非道であつたから民の疾苦亦甚しく居民は盛房を慕いこれを天童より迎いその居城戸崎を攻めてこれを亡したる後、盛房信州諏訪の神霊を奉じ来り霊地を下し安置し奉り祈願所としたと伝えられ、時に室町時代の永正十年(一五一一)であつた。明治五年村社に列せられ、同四十年三月供進社に指定された。同四十二年三月大字馬場の愛宕神社をはじめ、長袋の神明社、新川の新川、湯元の湯、境野の八幡、羽山、新川の白山の各神社を合祀、諏訪神社の社号を秋保神社と改め今日に至つた。(宮城県神社名鑑より)

御祭神

祭神 建御名方命

配祀 天照大神

豊受大神

月読命

日本武尊

大己貴命

小彦名命

軻遇突智命

応神天皇

当社の御祭神は由緒の通り、秋保の全神社を合祀し、一つにした為、左の九柱と多くの神様をお祀りしております。今後はそれぞれの霊験あらたかな御祭神を順次ご紹介して参ります。

まずは諏訪神社の祭神で、たけみなたのみこと建御名方命です。

秋保神社は元々合祀前は諏訪神社でありました。その総本社であり、御柱のお祭りでも全国に知られる諏訪大社は、信濃国諏訪の地に鎮座のことが「古事記」に明らかで、我が国最古の神社の一つであり、延喜の制に早くも名神大社として祈年の班幣に預かった。信濃国一之宮として広く天下の崇敬を集め、御神徳を奉じ分社分霊を祀ること全国津々浦々に及びその数五千有余を数える。祭神建御名方命は、大国主命の第二子で、兄事代主命と

共に大国主命を助けて、国土経営の大任に当たられた。天孫降臨に際し天神の勅を奉じて国土を奉り、科野国州羽(今のくすわ)に退き、妃神八坂刀売神並びに御子神と共にこの地の農耕機織をすすめられた。奉祭は末裔の神氏(諏訪氏)による。昔は狩獵の神・農業の神として神格を併有したが、神功皇后三韓征伐の際に更に神威を顕現、文永弘安の役に外敵を退けられた。由来国家鎮護の守護神として、歴代武門・武將の崇敬篤く、鎌倉幕府は社領を寄進し、武田信玄は社殿を造営、祭祀を復興し、江戸幕府はまた社領千五百石を奉獻し、神徳を仰ぐなど、武神・勝負の神としての信仰が厚い。

編集後記

この社報はこれからも折に触れ発刊し、当社のお祭りの様子や行事のお知らせなどをお伝えする予定です。社報が皆様と神社を繋ぐ架け橋となりますよう努力して参りますので、今後共よろしくお願い申し上げます。

追伸、お気軽に御参拝や御連絡をお待ち申し上げます。
補宜 高山晃和

ホームページ www.tsuonuma.org/akiu